

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、  
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第7回 石清尾山古墳群調査会議
開催日時	平成27年8月13日(木) 13時～17時 (13時から稲荷山北端1号墳・稲荷山1号墳の現地視察、 15時15分から埋蔵文化財センターで会議)
開催場所	高松市埋蔵文化財センター2階 講座室
議 題	議題1 稲荷山北端1号墳・稲荷山1号墳の調査について 議題2 今年度の事業計画について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	丹羽会長（香川大学名誉教授）、大久保委員（徳島文理大学教授）、森下委員（大手前大学教授）、山下オブザーバー（香川県教委文化財専門員）
欠 席 者	なし
傍 聴 者	0人（定員10人）
担当課及び 連絡先	文化財課文化財調査係 823-2714

### 審議経過及び審議結果

#### 審議経過及び結果

議題1～2を設定し、主に委員から以下の内容の指導・助言を得た。

#### **議題1 稲荷山北端1号墳・稲荷山1号墳の調査について**

##### 事務局の主な説明

##### （稲荷山北端1号墳について）

- ・8月13日現在、トレンチ1・3の調査を行っており、表土と一部の転石を除去した状態である。
- ・北側に墳丘が続くか確認しているトレンチ1について、北側に並ぶ石材を数石確認した。これが、墳丘を区画する石材なのか、トレンチを拡張して確認する必要があると考えている。
- ・トレンチ3について、昨年度の測量時に古墳の端と考えていた箇所よりも外側で、崩落したと考えられる板石が多数出土した。板石の背部には、塊石による石列が存在する。

##### （稲荷山1号墳について）

- ・古墳全体の落ち葉の除去を行った。
- ・現在のところ、円丘部西側の一部で、石列を確認した。それ以外の箇所では、明瞭に遺存した石列を確認することはできていない。

## 審議経過及び審議結果

### 委員からの主な意見

#### (稲荷山北端1号墳について)

- ・トレンチ1周辺の状況を見ると、北側に墳丘が存在した場合、単純に南側方丘部と同規模の墳丘が北側に存在するという解釈以外にも、何面もの方形状の段が存在する可能性や、突出部状の張り出しが存在する可能性など、今後の調査結果から複数の推定ができる可能性が考えられる。
- ・トレンチ1については、北側に続く石列を平面的に確認するために、北側にトレンチを拡張することも方法のひとつと考えられる。
- ・トレンチ1の西側について、円丘部を区画する石列の前面のバラス状の石材を、先行して断割っても良いのではないか。
- ・トレンチ3では、多数出土した板石の間に、石列の背部に存在する細かい礫なども見られる。この部分は、写真撮影などの記録を十分に取ったうえで、積極的な石材の除去を進めるべきではないか。
- ・トレンチ3について、段が数段存在する可能性も考えて調査すべきである。

#### (稲荷山1号墳について)

- ・これまで調査した稲荷山の2基の古墳よりも、石材の遺存状況が良くないと考えられる。

### 議題2 今年度の事業計画について

#### 事務局の主な説明事項

- ・11月初旬に第8回の調査会議を実施する予定である。
- ・11月21日に一般向けの現地公開を計画している。

### 委員からの主な意見

- ・稲荷山1号墳は、想定以上に遺存状況が良くないと考えられる。史跡指定にあたって、どの程度古墳の内容が把握できれば良いのか、事前に文化庁に確認しておく必要がある。
- ・稲荷山北端1号墳は、史跡指定にあたって解決すべき課題が多いと考えられる。次年度も調査する必要性が生じるかもしれない。